

公立大学法人金沢美術工芸大学第3期中期目標（素案）

前文

金沢美術工芸大学は、戦後の混乱と虚脱のなか、学問を好み、伝統を愛し、美の創造を通じて人類の平和に貢献することを希求する金沢市民の熱意により創立され、豊かな自然環境と歴史的遺産のなかで、美術・工芸・デザインの分野における個性豊かな教育と学術研究に取り組み、文化都市金沢の発展の一翼を担ってきた。

今日、持続可能な社会の実現に向け、環境負荷の軽減や教育格差の是正、デジタル化の推進など、多様な主体による積極的な取り組みが求められるなかで、金沢美術工芸大学は、芸術が社会に果たす役割を自ら探し行動する人材を育成し、世界における創造の機会の拡大と多様化に資するために、知と創造の拠点となることを目指す。

この実現のために、次に掲げる事項を目標とする。

1 未来へつなぐ芸術教育

伝統的な芸術教育を基盤として、社会課題と向き合い、デジタル技術等を柔軟に取り入れ、未来に対する責任と役割を自ら探し行動する人材を育成する。

2 特色ある芸術研究

社会的な要請を踏まえた特色ある研究を推進するとともに、学生、教職員による国際交流を拡充し、芸術分野における研究拠点の形成に取り組む。

3 社会との連携の強化

市民、企業、行政機関、芸術団体、他大学等との連携を強化し、教育研究成果の社会還元に努めることにより、創造の機会の拡大と多様化に貢献する。

4 新キャンパスでの飛躍

様々な領域の垣根を越えて交流する教育研究を推進し、「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」としてのキャンパスを実現する。

中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

中期目標の期間は、令和4年4月1日から令和10年3月31日までとする。

2 教育研究組織

金沢美術工芸大学は、教育研究組織として別表に掲げる学部、研究科等を置く。

第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容等に関する目標

学部教育では、汎用的な教養と専門的な芸術の理論、技術及びその応用の教育を通じて、美術・デザイン・工芸の発展に寄与する人材を育成する。

大学院教育では、芸術に関する高度な理論、技術及びその応用の研究教育を通じて、自律的かつ継続的に研究を遂行する能力を有する高度専門職業人を養成する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

教員の資質能力の向上及び教育環境・学習環境の整備に努めるとともに、キャンパス移転を踏まえた教育組織の改編・改革を行う。

(3) 学生への支援に関する目標

多様化する学生のニーズに対応するため、学生一人一人に寄り添った柔軟できめ細やかな学習支援、生活支援、進路支援等に取り組む。

(4) 入学者選抜に関する目標

入学者受入方針を不断に検証し、これに基づいた適切な方法により入学者選抜を実施するとともに、入学試験に関する広報活動を積極的かつ計画的に行う。

2 研究に関する目標

(1) 研究内容等に関する目標

芸術分野における高度で多様な調査・研究を推進するとともに、大学の特色ある研究活動の成果を広く国内外に発信する。

(2) 研究の実施体制等に関する目標

特色ある研究活動を推進するとともに、研究水準の向上を目指して、研究基盤の強化を図る。

3 社会との連携に関する目標

社会連携事業（地域連携・産学連携）を推進し、教育研究の成果を積極的に社会に還元するとともに、地域の文化と産業の発展に貢献する。

4 その他の目標

(1) 国際化に関する目標

海外の交流提携校を拡充し、教育・研究における国際交流を推進するとともに、学生の派遣・受入を行い、国際的な視野を持った人材を育成する。

(2) デジタル化に関する目標

デジタル化に対応した教育環境・学習環境を整え、専門分野にデジタル技術を活用できる人材を育成する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

社会の変化に対応しつつ、自主的かつ自律的な大学運営を行うため、理事長（学長）の指導力の下、柔軟で機動的な組織の運営に努める。

2 人事制度の改善に関する目標

教職員の資質能力の向上を目的とした評価活動を行うとともに、研修機会の充実を図る。また、人材の多様性の確保を念頭に置いた教職員人事の改善に努める。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

持続可能な社会の実現に向けた取り組みを踏まえ、事務等の適正な効率化・合理化を行い、労働環境の改善を図る。

第3 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金その他の自己収入の確保・拡大に関する目標

科学研究費補助金等の競争的研究資金の獲得のほか、社会連携による受託研究や共同研究、寄附金等による自己収入の確保・拡大に努める。

2 経費の効率化に関する目標

(1) 人件費の適正化に関する目標

教育研究の水準の維持・向上に配慮しつつ、適正な教職員等の採用・配置等を進める。

(2) 人件費以外の経費の効率化に関する目標

業務を簡素化し、弾力的で効果的な予算執行に努めるとともに、経費の効率化を進める。

3 資産の運用管理に関する目標

大学が保有する土地及び施設設備、芸術資料等を適正に管理し、その有効活用を図る。

第4 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

金沢市公立大学法人評価委員会や認証評価機関による評価結果を適切に公表するとともに、自己点検・評価の実施により大学運営の改善を図る。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

社会に対する説明責任を果たすため、法人情報の適切な公開に努めつつ、広報活動等により大学の教育研究情報を広く社会へ発信する。

第5 その他業務運営に関する重要目標

1 キャンパス移転に関する目標

キャンパス移転を着実に実施し、移転後は新キャンパスのコンセプト「開かれた美の探求と創造のコミュニティ」に基づく大学運営を推進する。

2 施設設備の整備・活用等に関する目標

教育組織の改編とキャンパス移転を踏まえて施設設備を整備し、良好な教育研究環境の維持管理に努めるとともに、その有効活用を図る。

3 大学支援組織等との連携に関する目標

成美会（保護者による後援会）や同窓会等との連携を図ることにより、学外からの支援体制を充実させる。

4 安全管理に関する目標

学生及び教職員の健康と安全を確保し、良好な教育研究環境を維持するため、災害、事故、犯罪、感染症等に対する安全管理に取り組む。

5 人権擁護及び法令遵守に関する目標

人権尊重、知的財産保護、研究倫理、法令遵守に関する意識向上とその徹底を図るとともに、各種ハラスメントの防止に取り組む。

別表（学部、研究科等）

学 部	学 科
美術工芸学部	美術科 デザイン科 工芸科

研 究 科
美術工芸研究科